

沖縄周辺重要水産資源調査

喜屋武 俊彦

本調査は国庫委託を受けて昭和47年度から継続実施しており、詳細は「昭和58年度沖縄周辺重要水産資源調査結果報告書」として報告した。

1. 目的および内容

本県周辺海域の主要魚種であるカツオ・タカサゴ類・アイゴについて漁獲物を購入し、それらを通じて成長と年令、成熟、産卵、系統群等の知見を得るため個体生態調査を実施し、また漁獲量の変動を知るために水揚地における漁獲量調査を実施し、資源量等を把握してこれらを対象とする漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

近海カツオ1本釣は沖縄本島の本部地区、宮古の伊良部、池間地区、八重山を中心に操業しており、今年は本部を除いては前年を上廻る漁であった。糸満のひき縄のカツオ類は前年以下の漁であったが、ひき縄全体としては前年を上廻った。

県漁連市場に水揚げされるタカサゴ類は前年に比べて水揚量は減少したが、1日1隻当り水揚量は逆に増加した。

アイゴは沿岸域の網漁業にとって重要な魚種であるが十分に産卵生態が知られていない。勝連漁場に水揚げされたアイゴは前年を上廻った。

なおこの調査を進めるにあたり、標本魚の購入、セリ帳の集計に便宜を与えられた各関係漁協に厚く御礼を述べたい。

2. 要 約

(1) 沖縄本島の本部、宮古、石垣のカツオ1本釣、糸満のひき縄、県漁連の追込網のタカサゴ類勝連のアイゴの水揚量調査を実施した。タカサゴ類とアイゴについては魚体を購入して個体生態調査(体長、体重、胃内容物、生殖腺調査)を実施した。

(2) 関連調査として県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協の3地区のセリ帳よりハマダイ、ハマフエフキ、スジアラ、アオリイカの水揚量調査を実施した。

(3) 本部のカツオの水揚量は202トン、前年比67%で大巾に減少した。1隻当り水揚量は67トンで水揚量同様大巾に減少した。水揚量は減少傾向、1隻当り水揚量は横ばい傾向である。(図1) 宮古の水揚量は1,220トン、前年比119%で若干増加、1隻当り水揚量は72トンで増加した。水揚量は増加傾向、1隻当り水揚量は横ばい傾向である。(図2)。石垣の水揚量は907トン、前年比103%で前年並、1隻当り水揚量は101トンで前年以上であった。水揚量は増加傾向、1隻当り水揚量は横ばいしないし若干減少傾向である。(図3)。

(4) 糸満のひき縄の水揚量は53.7トン、前年比129%で増加した。1日1隻当り水揚量は44kgで水揚量同様増加した。(図4)。魚種別水揚量をみると、カツオ類は4.4トンで前年以下、マグロ類は5.4トンで大巾に減少、サワラ類は7.8トンで前年の2倍以上で大巾に増加、シイラは4.8トンで

前年の3.5倍で大巾に増加、カジキ類は29.2トンで前年の約2倍と大巾に増加した。魚種別の水揚割合は、カジキ類54.4%、サワラ類14.6%、マグロ類10.1%、シイラ8.9%、カツオ類8.2%であった。

(5) 県漁連市場に水揚げされたタカサゴ類は465トン、前年比88.3%で減少、1日1隻当り水揚量は832kgで増加した。水揚量は昭和54年をピークに減少傾向、1日1隻当り水揚量は昭和53年頃から横ばい傾向である。(図5)。

(6) タカサゴの体長、体重測定を年10回、748尾、胃内容物、生殖腺調査を200尾実施した。最大体長は25.0cmで3月に出現、最小体長は9.8cmで10月に出現した。クマササハナムロの体長、体重測定を年8回、532尾、胃内容物、生殖腺調査を160尾実施した。最大体長は24.1cmで5月に出現、最小体長は12.2cmで8月に出現した。ニセタカサゴの体長、体重測定を年9回、181尾、胃内容物、生殖腺調査を110尾実施した。最大体長は26.2cmで3月に出現、最小体長は13.4cmで10月に出現した。

(7) 勝連漁協に水揚げされたアイゴは8.5トン、前年比147%で増加した。1日1隻当り水揚量は5.7kgで水揚量同様増加した。(図6)。

(8) アイゴの体長、体重測定を年7回、163尾、胃内容物、生殖腺調査を138尾実施した。最大体長は33.8cmで5月に出現、最小体長は17.5cmで8月に出現した。

(9) ハマダイの県漁連における水揚量は160トン、前年比76%で減少、1日1隻当り水揚量は63.1kgで水揚量同様減少した。那覇地区漁協の水揚量は102トン、前年比90%で若干減少、1日1隻当り水揚量は134.2kgで前年並であった。糸満漁協の水揚量は9トン、前年比91%で若干減少、1日1隻当り水揚量は25.8kgで減少した。(図7)。

(10) ハマフエフキの県漁連における水揚量は40トン、前年比144%で増加、1日1隻当り水揚量は11.3kgで増加した。那覇地区漁協の水揚量は8トン、前年比145%で増加、1日1隻当り水揚量は13.2kgで前年並であった。糸満漁協の水揚量は26トン、前年比128%で増加、1日1隻当り水揚量は15.2kgで若干増加した。(図8)。

(11) スジアラの県漁連における水揚量は79トン、前年比91%で減少、1日1隻当り水揚量は9.9kgで水揚量同様減少した。那覇地区漁協の水揚量は6kg、前年比106%で前年並、1日1隻当り水揚量は13.6kgで減少した。糸満漁協の水揚量は11トン、前年比108%で前年並、1日1隻当り水揚量は11.5kgで前年並であった。(図9)。

(12) アオリイカの県漁連における水揚量は55トン、前年比83%で減少、1日1隻当り水揚量は21.9kgで水揚量同様前年以下であった。那覇地区漁協の水揚量は5トン、前年比79%で減少、1日1隻当り水揚量は6.9kgで減少した。糸満漁協の水揚量は6トン、前年比131%で増加、1日1隻当り水揚量は5.6kgで若干増加した。(図10)。

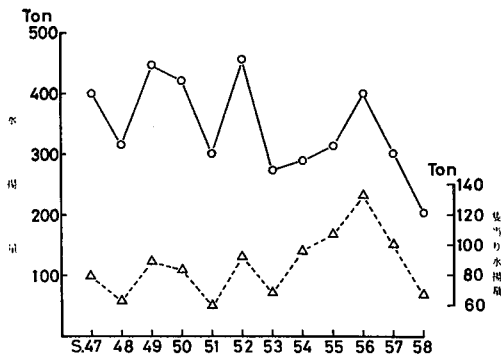


図-1 カツオ水揚量
1 隻当り水揚量経年変化 (本部)

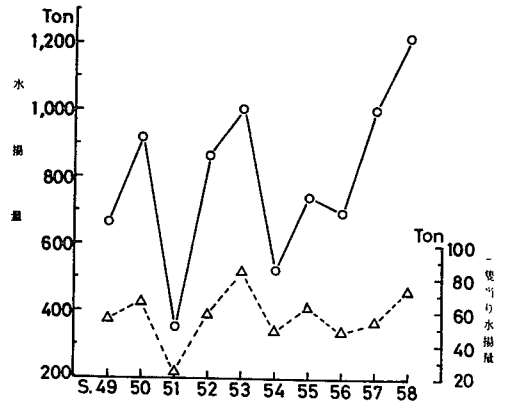


図-2 カツオ水揚量
1 隻当り水揚量経年変化 (宮古)

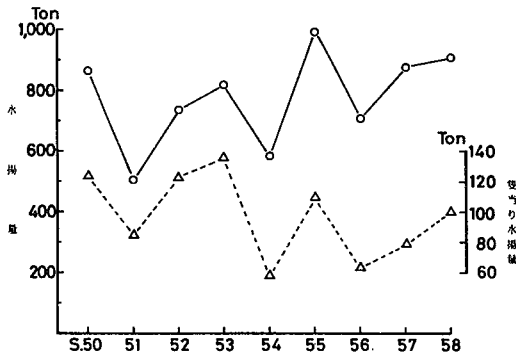


図-3 カツオ水揚量
1 隻当り水揚量経年変化 (石垣)

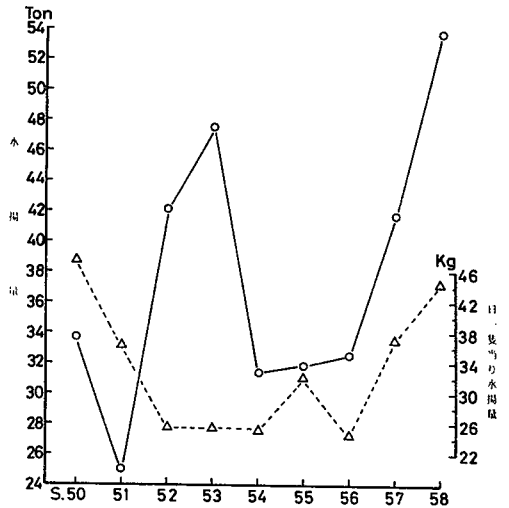


図-4 ひき縄水揚量
1 日 1 隻当り水揚量経年変化 (糸満)

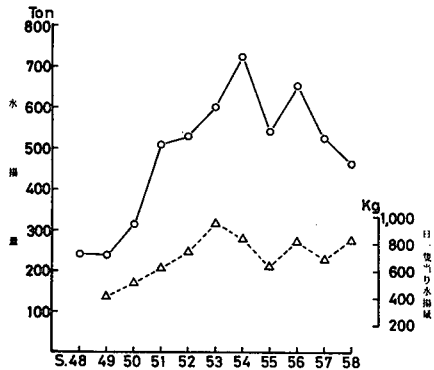


図-5 追込網によるタカサゴ類水揚量
1 日 1 隻当り水揚量経年変化 (県漁連)

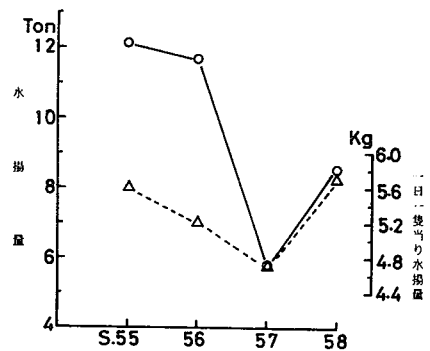


図-6 アイゴ水揚量
1 日 1 隻当り水揚量経年変化 (勝連)

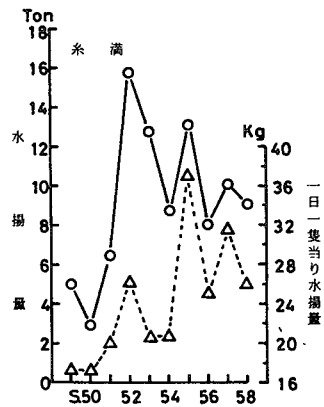
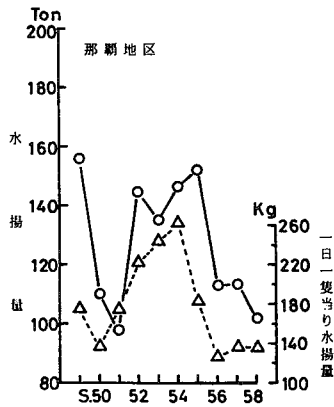
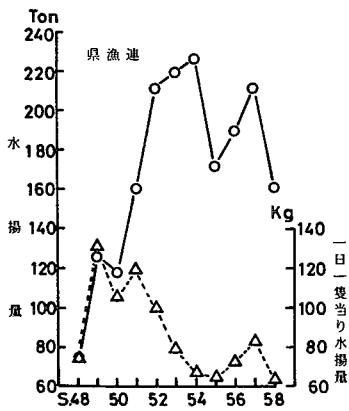


図-7 3市場におけるハマダイ水揚量
1日1隻当り水揚量経年変化

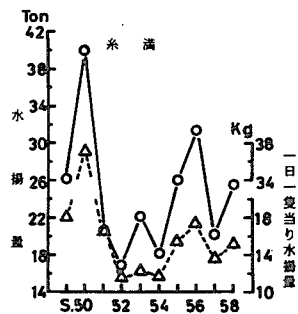
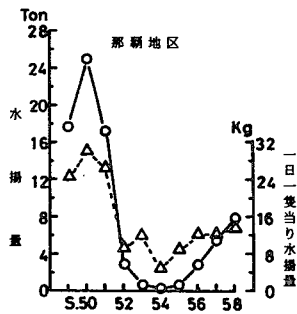
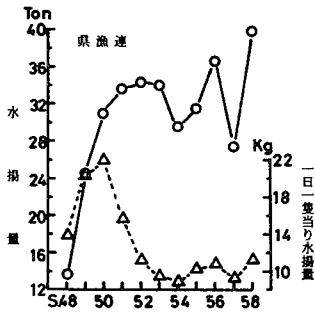


図-8 3市場におけるハマフェキ水揚量
1日1隻当り水揚量経年変化

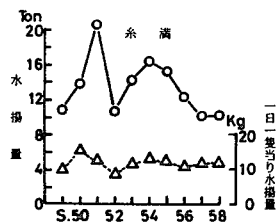
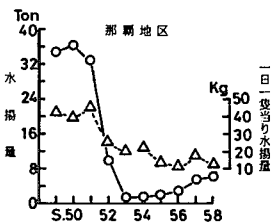
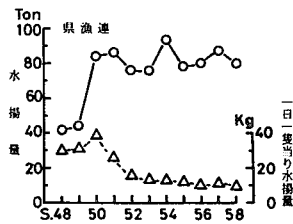


図-9 3市場におけるスジアラ水揚量
1日1隻当り水揚量経年変化

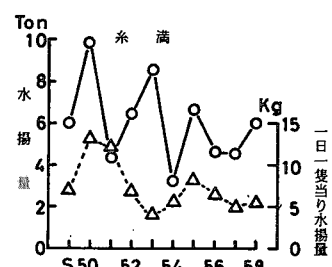
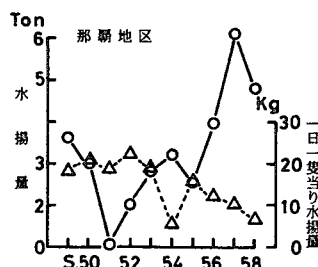
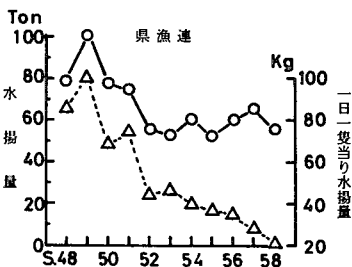


図-10 3市場におけるアオリカ水揚量 1日1隻当り水揚量経年変化